



いっぺいといっぷく

市長のまちづくりにかける想いを市長の語り口でお伝えします。
市HP「によぜがもん」もぜひご覧ください。

Vol.81 自分が当事者になりたい

かつて長久手を担当していた新聞記者が、退職し、1年ほど前に、出身地でもない北海道でゲストハウスを始められました。

とても熱心な記者だったようで、長久手の担当を離れて10年以上経った今でも、彼と交流している市職員が何人もいると聞いています。私も市長になる前、彼から取材を受けたことがあり、そのときの記事は、今でも大切に持っています。

すっかりご無沙汰していたのですが、彼の今の様子を紹介するインターネットの記事を見つけました。

そこには、ゲストハウスを始めようと思ったきっかけが書かれていました。

どんなに取材しても、その人の感動や苦勞、苦しみは、本人しか分からないことにもどかしさを感じ、次第に「自分が当事者になりたい!」というプレイヤー願望が生まれ、そして、新聞記者の宿命でもある転勤を何度か経験するうちに、「地域と交わって生きてきたい」と思い始めたからだと書かれていました。

そんな思いから始めたゲストハウスは、地元の人と外の人のごちゃ混ぜになること、訪れたゲストが、その地域の普通の雰囲気を感じ、暮らすように滞在することができることを目指しているそうです。ゲストハウスの部屋の外に出て、地域と関わってほしいという思いから、あえて部屋は、狭めのつくりをしているという徹底ぶりです。

彼のフェイスブックをチェックしている職員からは、彼や彼の家族が、地元だけでなく、いろいろなイベントやコミュニティに参加して、つながりを深め、そこから新たなつながりが生まれ……という様子が次々とアップされていると聞きました。

その職員は、「私には、到底、あんな面倒なことではできません」と言いましたが、そのとおりで、日々の暮らし、日常というのは、面倒なことばかりです。良いことばかりではなく、悪いところも必ず付いてくるものです。

でも、元記者の彼は、その面倒な日常こそが、本当の豊かさだと気づき、実践し、イキイキと北海道の地で暮らしています。

この記事を読んで、私は、すぐに彼に電話をしました。

「当事者になりたいと思ったこと、日常こそが本当の豊かさだと思ったこと。そのことに気付いたあなたは、すごい!!」と伝えました。

いつか、彼のゲストハウスに行ってみたいし、彼の思い、経験を長久手で話してもらいたいと思うのです。

参考:「北海道の人、暮らし、仕事。くらしごと」 <https://kurashigoto.hokkaido.jp/>

ふれあい つながり みんなが楽しむまちづくり
こんにちは! 西小学校区まちづくり協議会 検索 です。

災害時の避難のあり方が変わります

避難先は

- ① 自宅が安全なら「在宅避難」
- ② 可能であれば親戚・知人宅への「縁故避難」
- ③ 「避難所への避難」の順で検討してください。

(*消毒液・体温計・スリッパ・マスク等を持参する)

◆今年度は、例年と同様の防災訓練はありません。
参加者を地域の代表者に限定し、感染症対策をした
避難所の開設訓練を行う予定です。

☎0561-64-5331 西小学校区共生ステーション
nishi.no.machikyo@gmail.com

市が洞 市が洞小学校 イメージキャラクター

市が洞小学校区まちづくり協議会

<http://ichigahora.sakura.ne.jp/> (協議会HP)

■「子育て支援団体連絡会」を開催しました

9月12日(土)地域の子育て支援関連団体、PTAや子ども会と、まちづくり協議会登録団体のうち8団体の皆さんが初めての意見交換会に参加してくださいました。継続して情報共有の場にしてもらいたいと思いがまとまり、次に繋げていくための有意義な第一歩となりました。

■清掃活動を行いました

9月12日(土)朝7時半から環境美化運動として、今回はまちづくり協議会メンバー13名で、蟹原公園から学校に向けて通学路のごみ収集と草取りを行いました。コロナの状況をみながら、いつか多くの皆さんにも参加いただき、一緒に清掃活動ができる日を心待ちにしています。

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間
365日受付

ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください